

木野戸勝隆 きのと かつたか 國學者。嘉永七年十一月九日伊豫國喜多郡大洲生  
れ、昭和四年十一月十二日歿（八五—一九元）。初め武田千頴に學び、  
錦旗舎の漢學を修めた。明治四年皇學所副司讀。同年開化妨害の虞で  
岡山藩に幽閉、更に大洲藩に移され、激しく敬愛する木野と道の著作書  
寫に勵み、六年からはと道越に通りて切磋、のち師の二大著『神典  
翼』、『皇典翼』の補遺淨書といふ大業を完成。八年師の周旋により  
主典兼權訓導となり、翌春には最初の著作『淺間大神御傳略記』（明  
治九年刊）を出版。また神職の傍ら、十四年新設の皇典講究所舎長兼  
文學部修身科助教、神宮皇學館教授等を務めた。  
他に『祭祀式摘要』（明治十七年）二月十二日版權免許、平田胤雄刊）等。

